



令和4年度 水稻生育診断情報 No.5

(令和4年8月22日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター
近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今年度最終情報です)

現在の生育状況

◎作況調査の「みずかがみ」「コシヒカリ」の登熟は、7月下旬～8月中旬の好天により順調に進んでいる。

「みずかがみ」の成熟期は、平年よりやや早い見込み。

◎県内ほ場の5月上旬移植「みずかがみ」では、8月23日頃に成熟期を迎える見込み。

管理・収穫のポイント

◎葉色に惑わされず、穂(籾)色をしっかりと確認し、籾黄化率85～90%の時期に収穫する！(刈り遅れによる品質低下に注意！！)

◎根や葉の活力維持のため、収穫5日前まで湛水を保つ！

◎中生・晩生品種では今後も十分な水が必要なので、こまめな水管理を行う！

◎これから出穂するほ場では、穂いもち発生に注意して、いもち病が発生しやすいほ場を中心に防除対策を行う。

◎斑点米カメムシ類対策の防除は、ほ場をよく観察し、適期に行う。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
7月	下旬	やや高い	平年並	やや多い	かなり少ない
8月	月上旬	やや高い	平年並	平年並	やや少ない
	月中旬	平年並	平年並	かなり少ない	多い

注) 気温 <±0.5℃:平年並、±0.5～1.0℃:やや高い(低い)、±1.0～2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)

日照時間 <±5hr:平年並、±5～10hr:やや多い(少ない)、±10～15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)

降水量 <±10mm:平年並、±10～20mm:やや多い(少ない)、±20～30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

(2) 近畿地方1か月予報(8/20～9/19までの天候見通し)【大阪管区気象台8月18日発表】

■向こう1か月の天候は、近畿日本海側では天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。

■平均気温は、高い確率60%。

■週別の気温は、1週目は高い確率60%、2週目は平年並または高い確率ともに40%、3～4週目は高い確率50%。

2 生育状況

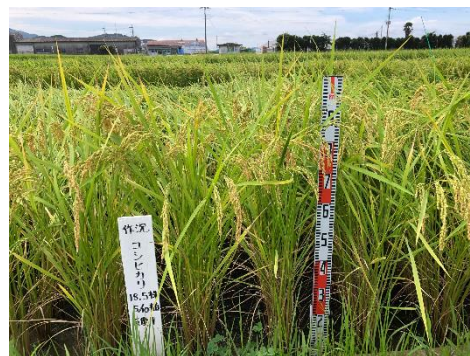
【農業技術振興センター 水稲作況調査による。表1、表2および後掲グラフ参照】

- 「みずかがみ」の出穂期は7月21日（平年より2日早い）、「コシヒカリ」の出穂期は7月26日（平年より1日早い）であった。
- 「みずかがみ」の成熟期は平年よりやや早い見込み。

8月19日現在の生育状況



「みずかがみ」
(出穂後29日)



「コシヒカリ」
(出穂後24日)

表1 令和4年(2022年)水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
7/10	みずかがみ	93.3	78.7	119	74.0	500	521	96	510	41.9	40.5	103	40.2	12.8	12.4	0.4	12.4
	コシヒカリ	89.7	79.7	112	76.3	545	564	97	567	38.9	37.6	103	36.5	12.4	11.7	0.7	11.6
7/20	みずかがみ	-	-	-	-	-	-	-	-	41.0	38.0	108	37.5	13.0	13.2	-0.2	13.0
	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	41.2	38.0	108	37.5	13.2	13.0	0.2	12.7
7/30	みずかがみ	-	-	-	-	-	-	-	-	40.1	36.8	109	34.4	13.0	13.2	-0.2	13.0
	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	40.3	38.3	105	38.5	13.4	13.2	0.2	13.0

※移植日：5月10日(播種日：4月20日)。栽植密度：18.5株/m²、植付本数は3本/株。

※平年は、H25～R3年(9年間)の平均値。

※平年比の網掛けは、±5%以上を示す。

表2 水稲作況調査 生育ステージ

品種：「みずかがみ」

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	6月28日	6月29日	1日早い	7月1日
出穂期	7月21日	7月23日	2日早い	7月24日
成熟期	未	8月25日	—	8月30日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月2日	7月3日	1日早い	7月5日
出穂期	7月26日	7月27日	1日早い	7月27日
成熟期	未	8月31日	—	9月4日

※移植日は5月10日(播種日：4月20日)。

※平年は、H25～R3年(9年間)の平均値。

3 今後の管理

(1) 適正な水管理

- 登熟期に水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒や胴割粒の発生、籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う（図1）。
- 収穫の5日前まで湛水を保ち、収穫作業に支障がない限り出来るだけ湛水期間を長くし、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる（図2）。
- 倒伏しているほ場では、成熟期に近づくと穂発芽が懸念されますので、速やかな排水に努め、刈り遅れないよう注意する。

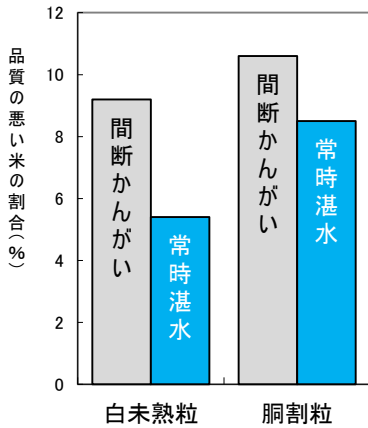


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係
(滋賀農技セ 2006年「コシカリ」)

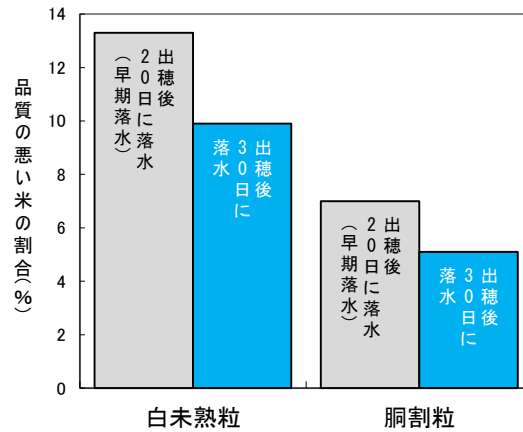
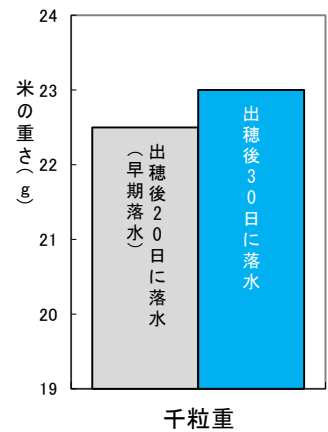


図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係
(滋賀農試湖北分場2004年「コシカリ」)



↓

出穂前後の常時湛水で
白未熟粒、胴割粒が減ります

↓

収穫直前まで入水すると、白未熟粒、
胴割粒が減り、収量も増加します

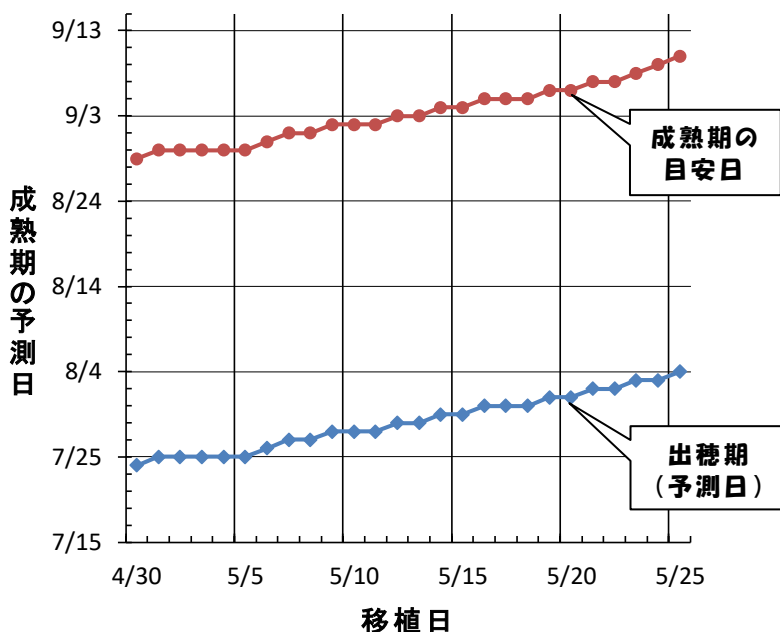
(2) 適期収穫

- ほ場内で出穂のばらつきが大きいところは、葉の色が黄化していなくても、籾は先熟している場合があるので、収穫時期が近づいたらほ場に入り、穂（籾）色をしっかりと確認して収穫適期を見極め、刈り遅れないよう注意する。
- 収穫適期は、穂の先端から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃で、籾黄化率85～90%の時期である（目安は、籾黄化率50%程度で収穫7日前）。
- 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種（「コシヒカリ」等）だけでなく、中生品種（「秋の詩」等）でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。

☆ 過去8年の登熟日数 (水稻作況調査データより)

年次 \ 品種名	みずかがみ	コシヒカリ
H25年～R3年	32～35日	33～37日

【参考】「コシヒカリ」の成熟期の目安



注)栽培管理支援情報SAKUMOを用いて8月18日時点の成熟期を予測。
 場所は近江八幡市安土町大中(作況調査ほ場)を設定。
 近江八幡市安土町より気温が高い地域はこれよりも早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる。

【適期収穫のポイント】 ★葉色に惑わされず、ほ場に入って穂をしっかり確認する。

- 収穫適期の目安
- ①穂の先端から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃
 - ②籾黄化率85～90%

★収穫7日前の目安：籾黄化率50%程度・・・収穫適期判定板を活用

適期収穫で調割粒を減らそう！
収穫適期判定板

使い方

- ほ場全体を見て、平均的な場所に入ります。
- 穂に判定板(黄板)の色がついている部分をあてます。
- 黄色く熟した籾(モミ)の割合を見て収穫時期を判断します。(判定板の色は熟した籾の色目安です。)

※葉色に惑わされず、ほ場の様子を見て判断してください。

特に8月～9月の気温が高くなった場合は要注意

※近年、出穂後(8月～9月)の気温が高く、熟期が遅くなってきています(下の表参照)。
 ※最も短い年は、「コシヒカリ」で30日、「日本晴」で32日、「秋の晩」で34日となりました(※2019年)。

年次	品種名	コシヒカリ	日本晴	秋の晩
平成3年～12年		37日 (34～40日)	41日 (34～48日)	—
平成13年～22年 (最近10年間)		33日 (30～37日)	38日 (32～40日)	39日 (34～44日)

近江米振興協会



(3) 病害虫防除

8月2日発表の「病害虫発生予報第8号」

(<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/yohou/>) または

県HP 組織から探す>農政水産部病害虫防除所>発生予察>発生予察情報>病害虫発生予報を参照

①穂いもち【発生時期：やや早、発生量：やや多】

→注意報第3号「穂いもちの防除は確実に！」を確認しましょう！

- ほ場の状況（水稻の生育や葉いもちの発生状況）をよく確認し適期に防除する。
- 粉剤、液剤（水和剤・乳剤等）は穂ばらみ期～出穂期に散布する。
- 穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
- 粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- 「秋の詩」と「滋賀羽二重糯」は、発生しやすいので特に注意する。

②紋枯病【発生時期：平年並、発生量：平年並】

- 前年の発生の多かったほ場では、特に注意する。
- 発生が多いほ場では、薬剤が株元によくかかるように散布する。

③斑点米カメムシ類【発生量：多】

→注意報第4号「斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ」を確認しましょう！

- 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので早急に除草する。
- 雑草管理が不十分でイネ科雑草の出穂が多く認められる畦畔・雑草地の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草を行う場合は、本田への薬剤防除前日に実施する。
- ほ場周辺の畦畔や雑草地に小型種（アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ）が多く発生しているほ場では、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。
- 大型種（ホソハリカメムシやクモヘリカメムシ等）が多く発生しているほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に）出穂10～20日後に防除する。
- 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。
- 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。

④トビイロウンカ【発生時期：やや早、発生量：やや多】

→防除情報第8号「トビイロウンカの飛来を確認」を確認しましょう！

- トビイロウンカは通常1か月弱で世代を繰り返し、急激に増殖して坪枯れを生じさせることがあります。そのため、9月以降に収穫期を迎えるほ場では、発生状況に注意してください。
- 防除の目安は「8月中旬以降の払い落とし調査において、本虫の寄生数が1株あたり1頭以上」です。
- ほ場全体をよく観察し、坪枯れ症状の前兆となる黄化症状（少数の株全体が枯れ始めて黄色くなる）の有無を確認します。トビイロウンカは株元に特に多いので、黄化症状が認められた場合、株元を注意して観察します。
- 薬剤で防除をする場合は、株元に薬剤を十分散布します。
- 収穫期が近い時期に薬剤散布する場合は、ラベルを確認し、収穫前日数を遵守して実施します。

【参考サイト】

農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>

病虫害防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

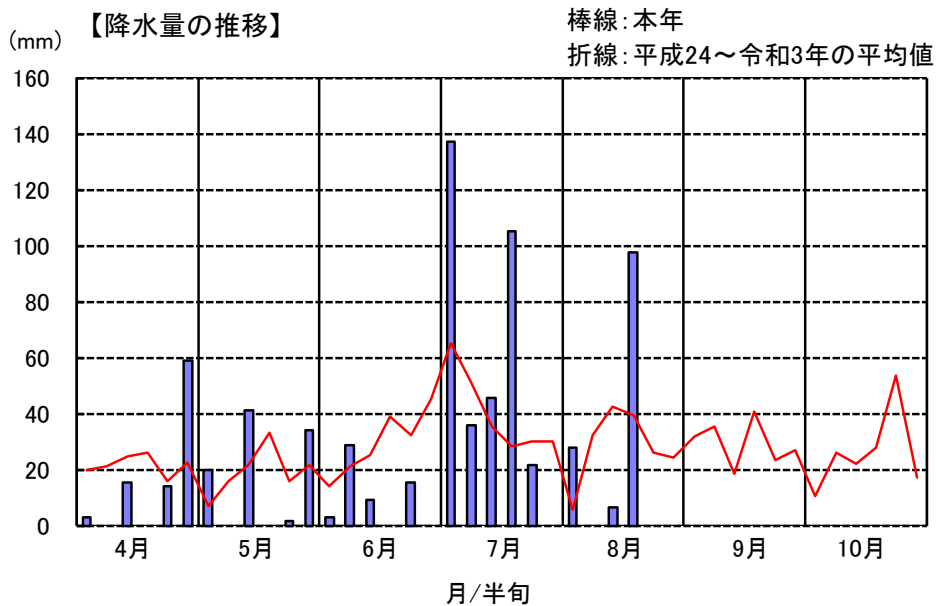
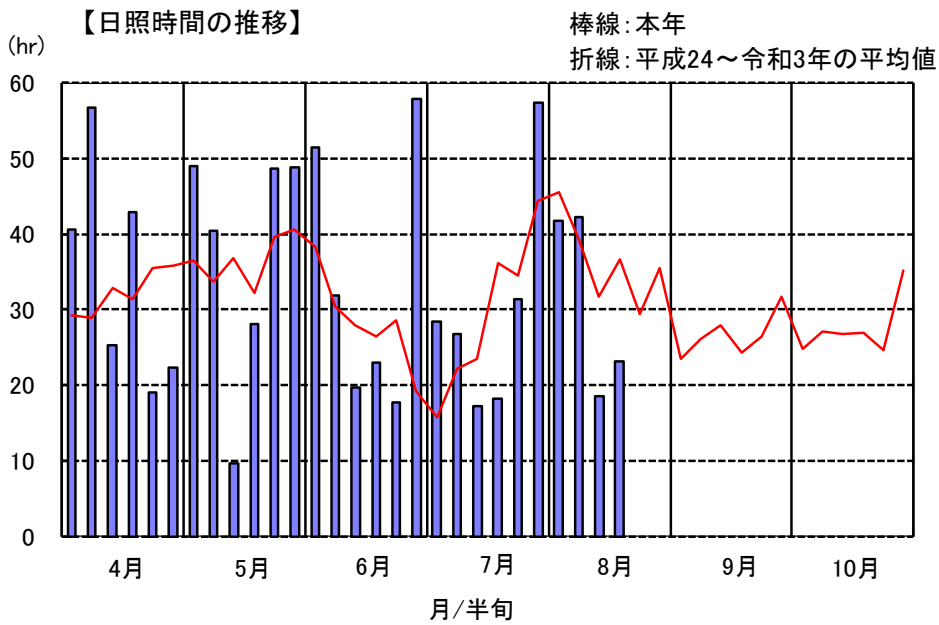
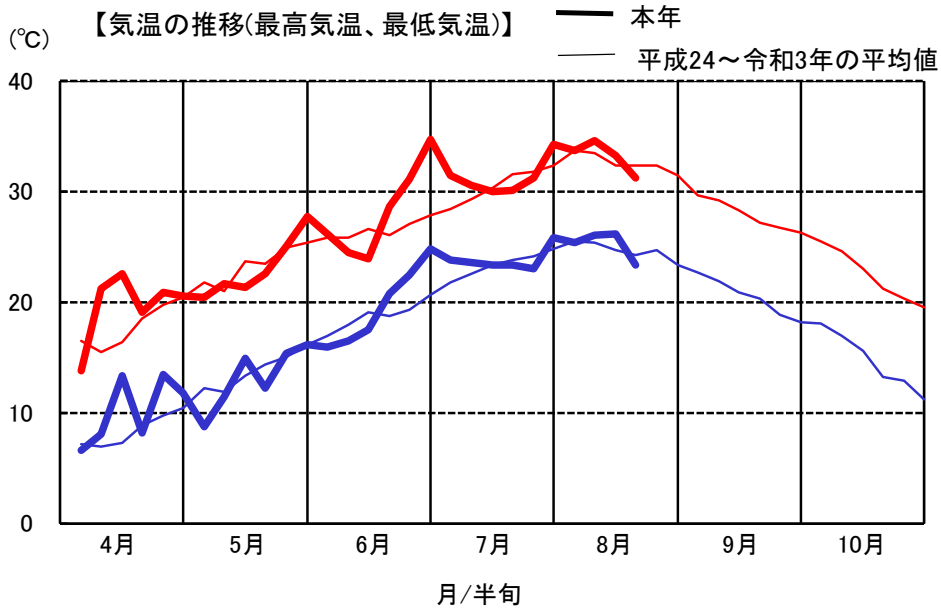
彦根地方气象台

<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>

早期天候情報

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/souten/>

令和4年(2022年) 水稲作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



注) 平年は平成24～令和3年の平均値.

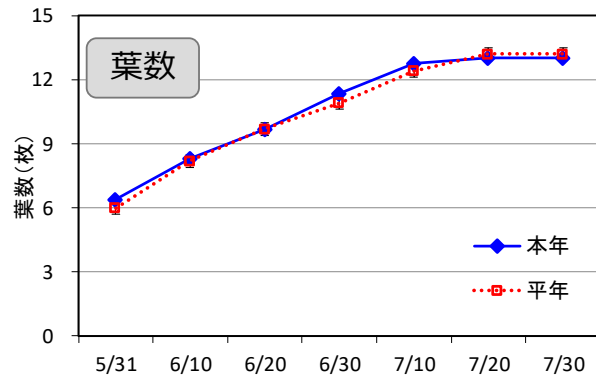
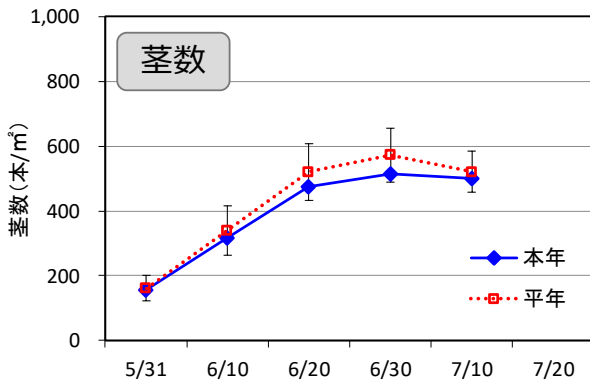
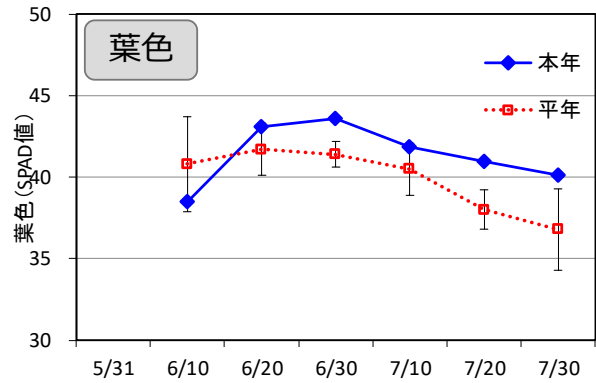
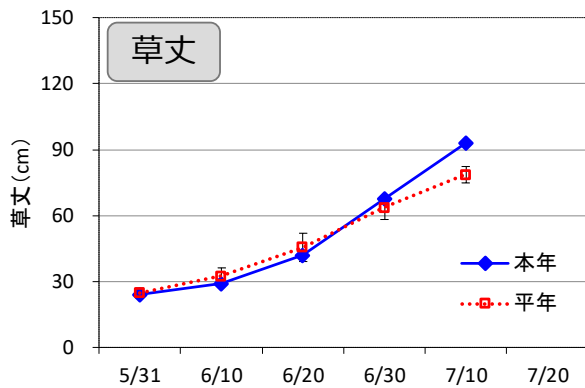
5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値.

令和4年(2022年) 水稲作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

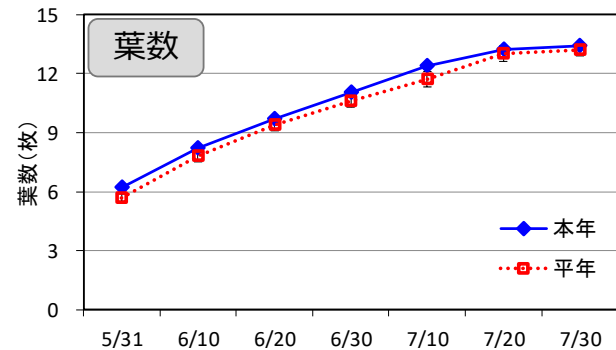
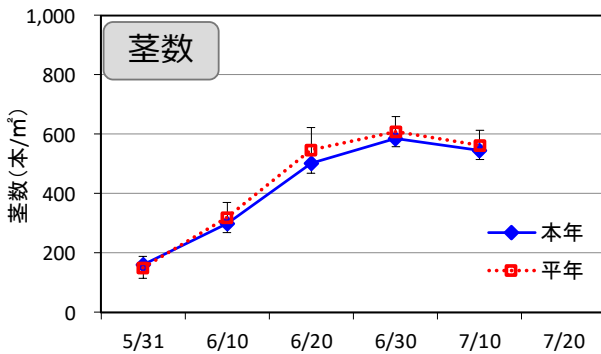
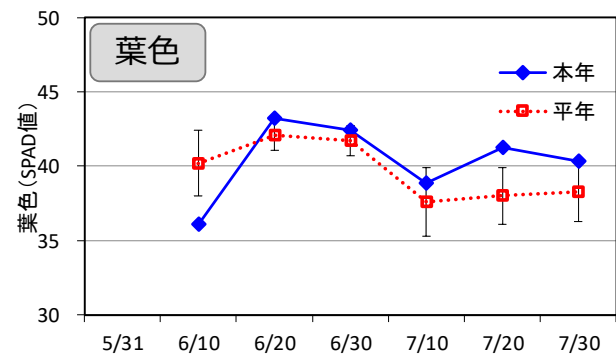
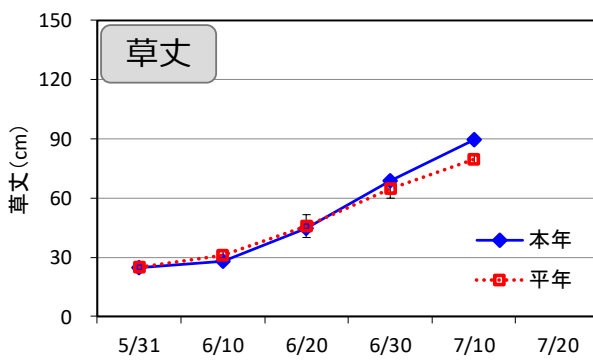
みずかがみ

播種: 4月19日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



コシヒカリ

播種: 4月19日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



注) 平年は過去9年(H25年~R3年)の平均値。